2024年度　支援活動報告書

2024年度は、前年度１月１日に発生した「能登半島地震」に対し、輪島市で引き続き対応を行っていました。

そのような中、9月21日に猛烈な雨が起こり、すでに地震で大きな被害を受けていた輪島市が再度被災すると言う、これまでにない経験をすることとなりました。

「コミサポひろしま」では、当初の活動を延長して輪島市に留まることを決定し、以後、地震、豪雨両方に対する被災者支援を実施しました。※2025年6月末を持って活動を終了

1.活動概要

(1) 活動地域と実績　（表１）

	災害名称	活動期間	活動日数	活動地域	延べ対応ニーズ数	主な活動内容	延べ活動者数
1	能登半島地震	4月1日～3月31日	307日	石川県輪島市	563件	土砂・瓦礫撤去 貴重品取り出し 家屋屋根の応急修理 床下処置 家屋内応急修理 その他、必要とされる支援	2,428名
２	能登半島豪雨	9月21日～3月31日					
		計	307日	－	563件		2,428名

２．輪島市での活動内容

(1) 4月1日～6月末の活動

発災から3か月間は断水や道路の途絶等、社会インフラが復旧しておらず、冬の時期でもあったことから厳しい環境での支援活動となりましたが、春に近づき徐々にインフラも回復し、気候も穏やかになり始めたことから、少しずつ被災地での生活にも変化がみられるようになってきました。

この時期は、主に倒壊家屋からの貴重品の取り出しを中心に実施する他、今後の生活再建等に向け破損した屋根の修復等の活動が始まりました。

数か月たって見つかった大切な品々を大切に抱えるご家族、危険物が取り除かれ安心して道を行き交う住民さんなど、置かれた状況は人ぞれぞれですが、少しずつ先に進む姿も見られました。

(2) 7月初旬～9月豪雨までの活動

主に屋根の応急修理を実施しつつ、必要に応じて被災家屋からの荷物移動等、被災者さんの置かれた状況に合わせて活動を実施しました。

また、これまで一緒に活動を続けてきた地域住民による復興団体の立上げの機運等も出始めてきたことから、年内での終了を目標に活動を実施しました。

(3) 9月21日の豪雨発生からの活動

まさにこれからという時に大きな雨が被災地を見舞いました。ようやく自宅に住めるようになった家

族、家業である食堂を再開した家族、それぞれが前に進み始めようとしていた時期だったこともあり、再度の被災は言葉に言い尽くせぬ現状でした。
　被災された方に言葉をかけるにも言葉が出てこず、ただ黙々と一緒になって土砂や瓦礫を出す作業が続くことになりました。
　一方、これまで駆けつけてくれていた多くのボランティアが、再度輪島を訪問してくれたことで、年内には目立った土砂や瓦礫等は撤去できました。

(4)2025年1月からの活動
　豪雨被害に見舞われた市中心部での活動は一旦落ち着いたことから、郊外での被災地域での活動も連携団体と協力して実施をはじめました。
　輪島市には海岸沿いや山間に小規模な集落が点在しており、それら地域ではまだまだ被害の爪痕が多く残っていました。
　また、引き続き屋根の応急修理等も実施するなど、日によって複数の家屋に分かれての活動となりました。
　地震から1年が経ち、地域を後にする住民さんについても耳にすることが多くなる一方、地域に残り復旧・復興に取り組む住民さんも多くおり、団体としては可能な限りこれまでのノウハウや知見をお伝えするとともに、地域での団体立上げの応援を行いました。
　結果として、地域の若者を中心に活動する「輪島復興支援団体リガーレ」「輪島支援協働センター」の2つの団体が大きな力となって地域で活動しています。また、それ以外にも大小さまざまな個人・団体が地元主体で復興に取り組んでおり、そこに少しでも関われたことが団体としても大きな喜びでした。

(5)2025年度を終え
　輪島市内では、まだまだ共助が必要とされる場面もあり、無期限に活動継続を決定した支援団体もありますが、コミサポひろしまとしては、地元団体が大きく活動を開始したことなどを判断材料とし、夏前を持って活動を終えることを3月には決定しました。
　ただし、全く関係性を終えるわけではなく、県外にいても応援をしていく考えで取り組むこととしています。※本報告書作成時点では活動終了　活動終了日　2025年6月30日

（輪島市における活動をとおして）
　「災害は忘れたころにやってくる」と言いますが、1年も経たずに輪島市は2つの災害に見舞われました。また、2007年「能登半島地震」、2023年に珠洲市を中心に被害をもたらした「奥能登地震」など、度重なる災害に見舞われたことで、この地に暮らす多くの皆さんが様々な困難（決断）に直面している場に居合わせることとなりました。
　どの被災地でも同様ですが、そのような場面に遭遇し私たちに何ができるのか、できないのか。また、災害が発生する前にどういった備え作りに貢献できるのか、今後は、災害後の対応だけでなく、防災・減災の視点からも活動を考えていかなければいけないと改めて実感をしています。
　加えて、各被災地で出来た繋がりを今後活かし、少しでも困難に対応できるよう準備をと考えます。

（活動写真）

（倒壊家屋の貴重品捜索で見つかったお年玉）

（破損した屋根の応急修理）

（活動の応援に来てくれた学生ボランティア）

（輪島に立ち上がった2団体の皆さんとMTG）

（9月21日の水害後の活動、市内の土地が低い地域には大量の泥水が押し寄せた）

３．寄付金の使途について

皆さまからのご寄付大変ありがとうございます。NIPPON ITチャリティ駅伝様からは、1,700,000円のご寄付を頂き、頂いた寄付金は全て能登半島支援ための活動に充てさせて頂いています。

（支出内訳）

	項目	金額（円）
１	旅費交通費	28,815
２	消耗品費（工具、活動にかかる消耗品等）	312,165
３	拠点借上げ費（ボランティア宿泊所となるコンテナハウス等の借り上げ費用）	256,586
４	3tダンプ、小型重機借り上げ費・修理費）	1,132,890
	支出 計	1,730,456

４．ご支援頂いたみなさまへ

この度は、コミサポひろしまへのご支援ありがとうございました。

過去例にない2重被災を強いられた輪島市を中心とした活動において、皆さまから頂いた支援が大きな力となりました。

被災地における活動は終わりがない毎日のようにも思えます。余所者である私たちのような団体が地域と何が出来るのか、いつまで、どこまで、何を行うのか、常に悩む中ではありますが、こういった形で多くの方に支えられることで、メンバー一同活動ができております。

また、手前味噌ではありますが、活動を通して被災された皆さんが前を向いて進むことに少しでも貢献できているのではないかと思います。

災害がないことを祈りつつ、平時・非常時に関わらず出来ることを模索し、「助け合い」や「お互い様」が広がっていく日々に少しでも貢献できればと思います。これからも応援よろしくお願いいたします。

コミサポひろしま一同